



最優秀賞 | ぐんまの家  
GUNMA HOUSING AWARD

## てれこ屋根の家

— SeeSaw House —

(てれこやねのいえ -しーそーはうす-)

設計者 / ATELIER N  
施工者 / 株式会社 関工務所



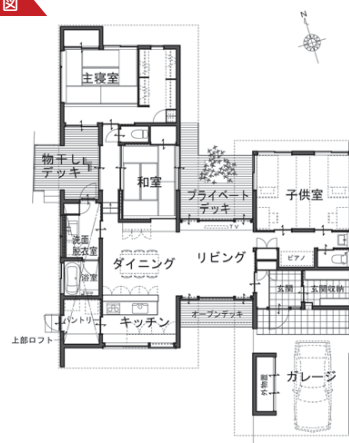
## 設計主旨

C O N C E P T

時に明るく開放的であり、時に落ち着き閉鎖的であってほしいという互い違いな要望に応えるために、奥に行くほど高くなる敷地に、奥に行くほど低くなる棟と奥に行くほど高くなる棟に軒の深い屋根を互い違いに架け、天井高の違いによりそれぞれの空間に意味を持たせ、3つのデッキスペース（オープンデッキ・プライベートデッキ・物干デッキ）により、広がりや光と風を各室に届けられる、プライベートと開放感を両立させた、おらかな住空間を目指した。共働き夫婦のために家事負担が軽減できるように家事動線の簡略化を図った。特に洗濯作業において、雨の日でも干せる広めの物干デッキを設置したり、収納までを入れた洗濯作業動線を短縮させられるように計画した。



平面図



## 講 評

### R E V I E W

田畑の点在するのどかな住宅地に、2つの緩やかな片流れ屋根がシーソーのようにも見える印象的な住宅。道路側から見ると、低く抑えられたアプローチ屋根の棟と、大きな木製窓と木の軒先を見上げる棟が並んで、プロポーション良く街並みに溶け込んでいる。

「てれこ屋根」の「てれこ」とは関西弁で「互い違い」を意味する。この片流れ屋根の2つの棟を、中央のリビングで繋いだ構成が空間に様々な特徴をもたらしている。屋根勾配はそのまま内部の天井の形となり、高天井に設けた大開口は明るい光を奥まで導き、部屋の連続性と共に開放感をもたらしている。和室、寝室へと奥に行く程天井は低くなり、さらに床レベルも上がり、より落ち着いた空間へと変化する。

全ての部屋に自然素材を使用し、光と風通しも十分考慮されている。また、中庭と部屋との繋がりが内外一体的な心地良い住空間を実現させている。動線には無駄がなく、特に家事スペースはコンパクトにまとまって共稼ぎ夫婦の負担を軽減している。

緩やかな南斜面の敷地奥にあるご実家の家とは、お互いに気配を感じられる程よい距離感で、孫である子供達もプライベートデッキを通って安心して楽しく行き来することができている。

軒の出、窓、デッキの配置による日照通風コントロールなど自然エネルギーを有効に活用し、なおかつ地域の風景に調和したデザインであり、優れた施工品質と共に最優秀にふさわしい作品である。